

中国における保育者養成カリキュラムの現状と課題

－「幼稚園教師¹⁾養成プログラム」の検討を中心として②－

劉 郷 英

I はじめに

2005年、中国全国幼児教師教育学会は中華人民共和国教育部師範司の委託を受けて、全国各種の幼稚園教師養成機関と連携して、中等専門教育機関である「幼児師範学校」（入学資格は中学校卒業となり、現在日本にはこれに相当する教育機関はない）、高等専門教育機関である「幼児高等師範専門学校」（入学資格は高校卒業となり、日本の短大または専門学校に相当する）、「4年制の師範大学・師範学院（単科大学）の就学前教育専攻」という3種類の養成機関の養成形態に対応して、以下に示す5つのタイプの幼稚園教師養成プログラムを開発した。

養成プログラム①：中学校卒業からスタートする就学前教育専攻三年制の中等専門教育レベルの養成プログラム（湖北省実験幼児師範学校が中心となって開発）

養成プログラム②：中学校卒業からスタートする就学前教育専攻五年一貫制の高等専門教育レベルの養成プログラム（鄭州幼児師範学校、石家荘幼児師範学校、北京幼児師範学校が中心となって開発）

養成プログラム③：中学校卒業からスタートする就学前教育専攻「三、二分段制」の中等専門教育レベルまたは高等専門教育レベルの養成プログラム（浙江師範大学杭州幼児師範学院、西安文理学院の幼児師範学部が中心となって開発）

養成プログラム④：高校卒業からスタートする就学前教育専攻三年制の高等専門教育レベルの養成プログラム（浙江師範大学杭州幼児師範学院、山西運城幼兒高等師範専門学校、黒竜江幼兒高等師範専門学校、長沙師範専門学校が中心となって開発）

養成プログラム⑤：高校卒業からスタートする就学前教育専攻四年制の大学本科教育レベルの養成プログラム（浙江師範大学杭州幼児師範学院、華東師範大学就学前特別教育学院、重慶師範大学就学前教育学院が中心となって開発）

養成プログラム①②③は、中等専門教育機関である「幼児師範学校」における3種類の養成形態に対応するものである。また、養成プログラム④は高等専門教育機関である「幼児高等師範専

門学校」における養成形態に対応するものであり、養成プログラム⑤は「4年制の師範大学・師範学院（単科大学）の就学前教育専攻」における養成形態に対応するものである。

本研究は、中国全国幼児教師教育学会がリードして開発した上述の『幼稚園教師（就学前教育専攻）養成プログラム（討論試験稿）』—中華人民共和国教育部師範司 2005 年指令課題研究成果報告書（以下『報告書』と略す）を踏まえながら、3段階に分けて、以上に挙げた5つのタイプの養成プログラムの教育課程について検討することを目的とする。第1段階では、養成プログラム①を中心に分析し、幼児師範学校における中等専門教育レベルの養成カリキュラムの現状を明らかにした。本稿では、第2段階として、養成プログラム②、養成プログラム③と養成プログラム④を中心に分析し、幼児師範学校および幼児高等師範専門学校における高等専門教育レベルの養成カリキュラムの現状を明らかにし、今後の課題について考察を試みる。

II 高等専門教育レベルの養成カリキュラムの現状

1、「養成目標」と「養成基準および養成内容」

表1は、『報告書』をもとに、筆者が養成プログラム②と養成プログラム③および養成プログラム④に設定された高等専門教育レベルの「養成目標」と「養成基準および養成内容」についてまとめたものである。（表1参照）

表1で示されたように、幼児師範学校における養成プログラム②と養成プログラム③、及び幼児高等師範専門学校における養成プログラム④には、共通の「養成目標」—「高等専門教育レベルの学歴を持つ質の高い就学前教育担当者を養成すること、及び共通の「養成基準および養成内容」—「正しい世界観、人生観、価値観を形成し、教師としての良好な職業道徳（倫理）を持つこと」；「しっかりとした幅の広い科学知識と一般的基礎知識を持つこと」；「就学前教育に関する基礎理論知識と専門的な技能と技巧を身につけ、一定の科学研究能力を持つこと」；「良好な心理素質と、健全な人格および健康な体格を持つこと」—などが設定されている。

2、「養成カリキュラムの編成基準」

表2は、『報告書』を踏まえて筆者により前述の3種類の養成プログラムに設定された「養成カリキュラムの編成基準」についてまとめたものである。（表2参照）

表2に示されたように、3種類の高等専門教育レベルの養成カリキュラムには、共通の「カリキュラムの編成基準」—カリキュラム編成における「時代性と展望性」；「高等専門教育の基礎性と就学前教育専攻の専門性」；「総合的教育と専門的教育」；「教育理論と教育実践との結合」；「統一性と柔軟性との結合」；「カリキュラム構造のモジュール化とスリム化」を重視すること—が設定されている。

3、3種類の高等専門教育レベルの養成カリキュラムの現状

表3、表4、表5は、それぞれ養成プログラム②、養成プログラム③、養成プログラム④にお

ける教育課程を示すものである。(表 3、表 4、表 5 参照)

以上の 3 種類の高等専門教育レベルの教育課程を比較してみると、全体的に次のような特徴が見られる。

① それぞれの教育課程は共通の構造で編成されている。

「養成プログラム②」と「養成プログラム③」は、そもそも「幼児師範学校」における中等専門教育レベルの教育課程をモデルに編成されたものであり、「養成プログラム①」の教育課程と共通の構造を持っている。つまり、「必修科目」、「選択科目」、「活動科目」と「教育実践」の 4 カテゴリーで構成されているのが特徴である。一方、「養成プログラム④」は、高等専門教育レベルの基準を基に編成されたものであり、「必修科目」、「選択科目」と「教育実践」の 3 カテゴリーの構造を持っている。

② 必修科目が占める割合は、「養成プログラム②」では 8 割強、「養成プログラム③」では 7 割強、「養成プログラム④」では 6 割強であり、それぞれの「養成目標」を実現するための主要科目によって占められている。

必修科目には、「一般教養科目」、「専門理論科目」、「専門技能科目」が含まれている。「養成プログラム②」と「養成プログラム③」では、「一般教養科目」は必修科目の 6 割、「専門科目」は 4 割を占めている。また、「養成プログラム④」では、「一般教養科目」は 4 割、「専門科目」は 6 割を占めている。受け入れ学生の教育水準（中卒か高卒か）が高いほど、「専門科目」の占める割合が高くなるのが特徴である。

③ 「一般教養科目」には、学生に対する「思想道德教育」科目と「一般教養教育」科目が設置されている。

「思想道德教育」科目は、主として「養成基準および養成内容」で制定した「思想道德面」に対する要求—「マルクス・レーニン主義、毛沢東思想と鄧小平理論の基本視点を身につけ、中国的特色のある社会主義建設の基本原則を理解し、正しい世界観、人生観、価値観を形成すること」「現代公民としての良好な資質と教師としての職業道徳（倫理）を持つこと」等—を具現化するために設置されたものであるが、「一般教養教育」科目は、主として各段階の基礎学力の育成を目的として設置されたものである。例えば、「養成プログラム②」と「養成プログラム③」は、中卒からの学生を対象とするものであるため、学生の高次教育レベルの学力育成を目的とする「国語」「数学」「英語」「物理」「化学」「生物」「歴史」「地理」などの科目と、大学教育レベルの学力育成を目的とする「大学国語」「大学英語」「コンピューター基礎と現代情報技術」などの科目が設置されている。

④ 「専門科目」には、「専門理論」科目と「専門技能」科目が含まれており、受け入れ学生の教育水準（中卒か高卒か）が高いほど、「専門理論」科目の割合が高くなる。

「専門理論」科目は、主として「養成基準および養成内容」で制定した高等専門教育レベルの就学前教育担当者の「専門性」に対する要求—「系統的な教育理論を身につけ、正しい教育観と子ども観を形成すること」「就学前教育に関する基礎知識を身につけ、就学前教育の改革と発展

に直面している実際の問題を分析し解決する初歩的な能力を備えること」「就学前教育の仕事に従事するための総合的な実践力、創造力を持つこと」「就学前教育に関する科学研究の基礎理論と方法を身につけ、一定の科学研究能力を持つこと」等一を踏まえて具体的に設置されたものである。「就学前心理学」「就学前教育学」「就学前衛生学」「就学前児童健康教育」「就学前児童言語教育」「就学前児童社会教育」「就学前児童科学教育」「就学前児童芸術教育」「幼児の遊びと学習」「就学前教育研究方法」「幼稚園教育課程」「幼稚園管理」「就学前教育史」「幼稚園環境教育」「児童の家庭と地域教育」「就学前教育政策法規」など、科目名から分かるように、就学前教育に関わるさまざまな専門領域の科目が設置されている。とりわけ、「統合教育」の理念に対応して、専門科目（選択または必修）には、これまでにない「特殊児童」に関する教育科目が新しく設置されている。

「専門技能」科目には、学生の芸術的素養の育成を目的とする「芸術」科目—音楽、舞踊、美術などの基本知識と基本技能に関する科目などが含まれるものと、学生自身の身体的資質及び就学前児童に対する体育教育と健康教育に関わる能力の向上を目的とする「体育」科目—体育に関する基礎知識の教育と基本技能の訓練などが含まれるもの—が設置されている。

⑤ 選択科目は、各養成プログラムの重要な構成部分であり、学生の専門的特長を十分に発展させるために設置されたものである。選択科目の占める割合が養成プログラムによって異なる。養成プログラム②では 4.62%、養成プログラム③では 10%、養成プログラム④では 15.4%である。

各養成プログラムにおける選択科目は、それぞれ 2 種類に分けられている。養成プログラム②では、「特長別選択科目」—音楽（ピアノ、アコーディオン、声楽）、美術（素描、色彩、中国画）、舞踊、会話、英会話、コンピューターなど—と、「自由選択科目」—①一般教養類科目、②就学前教育専門知識類科目、③芸術学科類科目—が設置され、養成プログラム③では、「専門種別別選択科目」—①人文社会科学類科目、②自然科学類科目、③コンピューター及び現代教育技術類科目、④教育類科目、⑤英語類科目、⑥美術類科目、⑦舞踊類科目、⑧音楽類科目など—と、特殊教育や芸術・体育類に関わる「自由選択科目」が設置されている。また、養成プログラム④では、「専攻コース別選択科目」—①人文・社会・科学コース科目、②芸術コース科目、③英語コース科目、④体育コース科目、⑤幼稚園経営管理コース科目、⑥就学前教育研究コース科目—と、「自由選択科目」が設置されている。

⑥「教育実践」は、就学前教育の理論を幼児教育実践に応用する能力を育成する目的で設置されたものである。

「教育実践」には、軍事訓練や職業教育、始業教育、教育観察実習、教育実習、教育調査などの科目が含まれている。

Ⅲ 高等専門教育レベルの養成カリキュラムの今後の課題

21 世紀における中国の幼児教育・保育事業の発展目標として、0 歳～6 歳の一貫した科学的な

早期教育を実現することである。そのために、幼稚園教師を代表とする質の高い保育者を養成するために、現行の3種類の養成機関における5つのタイプの養成形態に対応して、5種類の養成プログラムが開発された。前項では、高等専門教育レベルの3種類の養成プログラムを踏まえて、その養成カリキュラムの現状について検討してきた。全体的に次のような共通の特徴を持っていると考えられる。

各養成プログラムの教育課程には、一貫して「マルクス主義基本原理」「毛沢東思想、鄧小平理論と「三つの代表」の重要思想概論」「思想道德修養と教師の道德教育」などのような政治思想道德教育に関わる科目が含まれている。また、専門理論科目には、就学前教育に関わるさまざまな専門領域の科目が設置されているが、「乳児保育」を初めとする保育学の科目は設置されていない。さらに、近年における「統合教育」の理念に対応して、必修科目または選択科目として、「特殊児童」に関する教育科目が新しく設置されている。しかし、すべての子どもの生活保障を基底とする権利保障・最善の利益保障に関する「社会福祉」や「児童福祉」の科目は設置されていない。

劉・中田ら²⁾は、日中両国の保育者養成の現状について検討した上で、両国の就学前教育が抱える緊急課題について次のように提起している。「第1に、今日、両国は、経済のグローバル化の下で、貧富の格差が拡大しており、子どもの保育や発達をより十全なものとするためには、親の労働への展望や生活の安定が大切になっている。従って、保育の充実のためには、社会的な諸制度（社会保障制度）の充実とそれを動員し活用した親支援の充実強化とともに総べての子どもに（乳）幼児教育を保障することが重要な課題となっているのである。第2は、乳児保育の充実である。ユニセフが指摘するように、0～3歳の時期は、子どもの発達にとって極めて重要である。この時期の子どもの生活・発達環境は、大人の手にゆだねられており、その発達にとって、生涯発達の基礎としての積極的な教育を保障する必要がある。それはまた、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」でいう「子の養育には男女及び社会全体がともに責任を負うことが必要である」ことを認識し、家庭と社会が共同して子育てができる条件整備が重要である。それはまた、親の労働権保障とも連動するものである。対人サービスである保育は、保育者の質が直接保育の質に反映される。従って、上記の課題は、保育者養成カリキュラムとしても重要な課題であると考えている。」

上述の指摘を踏まえて、中国における高等専門教育レベルの養成課程の設置には以下のような課題があると指摘しておきたい。

「子どもの権利条約」の精神を貫くのに世界で行われつつある幼児教育・保育改革の潮流に歩調を合わせ、質の高い保育者を養成するために、現行の「幼稚園教師」養成課程を軸にして、21世紀における中国の幼児教育・保育事業の発展目標—0歳～6歳の一貫した科学的な早期教育—を実現するために、新しい保育者養成課程を編成しなければならない。具体的に、前述の「幼稚園教師」養成プログラムにおける教育課程を次のように修正する必要があると考えられる。

- ① 教養の高い保育者を養成するために、「一般教養科目」には、イデオロギー的な思想道德教育に関わる科目や学力育成に関わる教科教育科目ばかりでなく、「自然科学」「社会科学」

「人文科学」などの各分野に関わる基礎知識を学習できる多種多様な科目を設置することが望ましい。

- ② 乳幼児の教育・保育に携わる専門家として、専門性の高い保育者を養成するために、専門科目には、狭義の幼児教育に関する科目に限らず、乳幼児期の子どもの最善の利益につながる生活保障を基本理念とする保育学の科目や、すべての子どもの生活に関する権利保障として、「社会福祉」「児童福祉」の科目などを導入することが望ましい。
- ③ 今までの欧米の幼児教育制度・内容を輸入しそれを実践するやり方を克服し、中国の社会や生活及び文化の現状を正しく把握し、中国の幼児教育を創造し実践することができるような保育者を養成するための科目編成が望ましい。

本稿は、本研究の第2段階として、養成プログラム②～④における高等専門教育レベルの養成カリキュラムの現状と課題について検討した。次稿では、養成プログラム⑤で設置された大学本科教育レベルの養成カリキュラムの現状と課題について検討する。

【注】

- (1) 劉郷英は、『中国における保育者養成カリキュラムの現状と課題—「幼稚園教師養成プログラム」の検討を中心として①—』の論文で、「幼稚園教師」の名称について、「1950年代当初の法規上の原文は「教養員」であったが、1987年以降の法規上では、「幼稚園教師」となっている。」と説明しているが、実は、「幼稚園教師」の名称は、1986年10月14日に発布した「幼稚園教師の審査に関する国家教育委員会の補充意見」から登場したものである。
- (2) 劉郷英・中田照子・平岩定法・丹羽正子・宍戸健夫「日中両国における保育者養成の現状と課題」(未掲載) 2010年。

(名古屋経営短期大学子ども学科 准教授)

中国における保育者養成カリキュラムの現状と課題

表1：養成プログラム②、③、④に設定された「養成目標」、「養成基準および養成内容」（下線は筆者によるもの）

	養成プログラム②(中卒から5年間)	養成プログラム③(中卒から3~5年間)	養成プログラム④(高卒から3年間)
養成目標	徳育、知育、体育、美育等の方面で全面的に発達し、堅実な一般教養の基礎知識や、正しい教育観及び良好な教育技能と技巧を持ち、 <u>基礎教育の改革と発展のニーズに満たせるような高等専門教育レベルの学歴を持つ就学前教育担当者を養成する。</u>	良好な思想道徳と高い総合的一般教養能力を持ち、就学前教育の基礎理論を身につけ、強い教育実践能力を持ち、 <u>中等専門教育または高等専門教育レベルの学歴を持つ就学前教育担当者を養成する。</u>	高校卒業の学生を受け入れ、 <u>全面的に発達している質の高い幼稚園教師を養成する。</u>
養成基準および養成内容	<p>①四つの基本原則に基づき、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想と鄧小平理論の基本観点を身につけ、正しい世界観、人生観、価値観を形成すること。現代公民としての良好な資質と教師としての職業道徳（倫理）を持つこと。</p> <p>②しっかりとした幅の広い科学知識と一般的基礎知識を持ち、良好な科学的、人文的素養を持ち、有効な学習方法を身につけ、生涯学習に相応しい基礎知識、基礎技能と能力を持つこと。</p> <p>③就学前教育の仕事に従事するのに必要とする芸術、体育等の教科に関する基本理論と技能を総合的に身につけ、良好な芸術的素養と一定の創作能力を持つこと。</p> <p>④系統的な教育理論を身につけ、正しい教育観と子ども観を形成し、幼稚園教師としての良好な職業道徳（倫理）を身につけ、就学前教育の仕事に従事するための総合的な実践力、創造力と<u>初歩的な教育研究能力を持つこと。</u></p> <p>⑤健全な人格と良好な個性的心理素質を持ち、高尚な審美的センスと健康な体格を持つこと。</p>	<p>①思想政治道徳の面では：正しい政治理論観念や、良好な思想道徳とりわけ教師としての職業道徳（倫理）と法制観念を持ち、正しい世界観、人生観、価値観を形成すること。</p> <p>②一般教養と科学技術の面では：幅の広い人文社会科学の知識と自然科学の知識を持ち、強い外国語能力を持つこと。前三年間で履修する主要な一般教養の科目は普通の高等学校の水準に到達すること。</p> <p>③専門理論、専門能力の面では：就学前教育に関する基礎知識を身につけ、就学前教育の改革と発展に直面している実際の問題を分析し解決する初歩的な能力を備えること。就学前教育に関する科学研究の基礎理論と方法を身につけ、一定の科学研究能力を持つこと。幼稚園教師に備えなければならない専門的な技能と技巧を持ち、幼稚園で総合的芸術教育を行う理念と能力を持つこと。</p> <p>④身体、精神的な面では：健康な体格と、健全な心身及び社会に適應する能力を持ち、「大学生のスポーツ合格基準」の要求に達成すること。</p>	<p>社会主義祖国を愛し、中国共産党を愛し、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論と「三つの代表」の重要思想における基本観点を身につけ、正しい世界観、人生観、価値観を形成し、就学前教育事業を愛し、教師としての良好な職業道徳（倫理）を持つこと。</p> <p>しっかりとした幅の広い一般的基礎知識と科学知識および人文的芸術的素養を持つこと。</p> <p>就学前段階の教育と教授の基本法則を理解し、先進的な就学前教育の思想と批判的精神および初歩的な教師の専門的發展能力を持ち、幼稚園におけるさまざまなカリキュラム開発と教育を実施する能力を備え、ある分野においては優れる専門的技能を持つこと。</p> <p>良好な心理素質と、健全な人格および健康な体格を持つこと。</p>

表 2：養成プログラム②、③、④に設定された「養成カリキュラムの編成原則」

	養成プログラム②（中卒から5年間）	養成プログラム③（中卒から3~5年間）
養成カリキュラムの編成原則	<p>原則①：中国共産党の教育方針を全面的に貫き、教育は「近代化へ、世界へ、未来へ」の指導思想を以て、学生が徳育、知育、体育、美育、労働の諸方面で全面的に発達するように工夫すること。</p> <p>原則②：素質教育を強化し、学生の思想、一般教養、能力および心理の諸側面での素質を全面的に向上させるように工夫すること。</p> <p>原則③：課程編成では、実践志向、問題解決志向と生涯学習志向を堅持し、理論学習と実践応用との結合を重視し、学習者が教育実践で直面している現実問題に注目し、生涯学習の理念を貫くように工夫すること。</p> <p>原則④：カリキュラムの構造を改善し、必修科目、選択科目および教育実践の有機的な結合を実現し、学生が能動的に発達できるようにいい環境を創ること。</p> <p>原則⑤：五年一貫制で管理し、順序に沿って漸進し、科学的で秩序のあるカリキュラムシステムの構築を工夫すること。</p> <p>原則⑥：カリキュラム編成では、知識、素質、能力、技能などの諸側面のニーズに従って、さまざまなカリキュラムのモジュールを設置し、カリキュラム構造のモジュール化を実現し、カリキュラム編成の目標を最大限に実現させること。一方、履修期間の短い柔軟性のあるスリムな課程を編成し、カリキュラムのスリム化と専門的特徴を反映させること。</p>	<p>原則①：養成プログラム②と同じ。</p> <p>原則②：養成プログラム②と同じ。</p> <p>原則③：養成プログラム②と同じ。</p> <p>原則④：養成プログラム②と同じ。</p> <p>原則⑤：五年分段制で統一的に管理する。前の三年間では、養成プログラム①である「中学校卒業からスタートする就学前教育専攻三年制の中等専門教育レベルの課程基準」に達成し、三年で卒業する学生が就学前教育の仕事に従事できるように準備しなければならない。その後の二年間では、さらに専門的な水準を向上させるように工夫すること。</p> <p>原則⑥：養成プログラム②と同じ。</p>
	養成プログラム④（高卒から3年間）	
養成カリキュラムの編成原則	<p>原則①：時代性と展望性—カリキュラム編成は、「近代化へ、世界へ、未来へ」に向けて実施すること。つまり、今日の社会経済、文化と科学技術の発展傾向を反映し、国際教育改革及び中国の就学前教育課程改革の先端に近づき、科学的な就学前教育の新しい理念を反映するように工夫すること。</p> <p>原則②：基礎性と専門性—カリキュラム編成は、高等専門教育の基礎性を反映すると同時に、今日の教育課程改革の傾向と素質教育の実施要求と密接に結びつけて、就学前教育専攻の特徴を反映するために、科学的なカリキュラムシステムを構築し、教師の専門的水準を向上させるように工夫すること。</p> <p>原則③：総合性と専門性—カリキュラム編成は、現代の科学技術の発展と就学前教育課程改革の総合化の傾向を踏まえ、総合的な素質教育を強化し、科学的素養を重視し、人文的精神を反映し、学科間の相互的融合及び情報技術と各学科との統合を強化する。同時に、就学前教育のニーズを踏まえ、総合的教育と単一学科教育とが結びつけ、学生が文理とも精通し、専門性に優れ、一種の専門的技能を身につけると同時に多種多様な技能を持つように工夫すること。</p> <p>原則④：理論と実践との結合—カリキュラム編成は、幼稚園教師養成の要求を踏まえ、科学的に一般教養知識の科目と教育理論科目を設置すると同時に、教育実践と科学実験を重視し、教師職の技能訓練と職業能力の育成を重視するように工夫すること。</p> <p>原則⑤：統一性と柔軟性との結合—カリキュラム編成は、中国における経済、文化と教育発展の地域格差の現状を考慮して、各地方自治体の教育行政部門が本養成プログラムの基本 requirements を踏まえ、各地域の実状に合わせて適当な調整をするように工夫すること。</p> <p>原則⑥：養成プログラム②と同じ。</p>	

中国における保育者養成カリキュラムの現状と課題

表3：養成プログラム②の教育課程表

	政治思想関連科目 (5.1%)	一般教養関連科目 (40.2%)	就学前教育専攻理論科目 (14.6%)	芸術科目 (20.4%)
必修科目 80.4%	①経済基礎、②法学基礎、③哲学、④政治基礎、⑤思想道德修養と教師の道德教育、⑥毛沢東思想概論、⑦鄧小平理論	①国語、②大学国語、③幼児教師用会話、④児童文学創作、⑤作文、⑥数学、⑦英語、⑧大学英語、⑨物理、⑩化学、⑪生物、⑫地理、⑬コンピューター基礎と現代情報技術	①就学前衛生学、②就学前教育学、③就学前心理学、④就学前教育研究方法、⑤就学前教育史、⑥就学前児童の健康教育、⑦就学前児童の言葉教育、⑧就学前児童の社会教育、⑨就学前児童の科学教育、⑩就学前児童の芸術教育、⑪幼児の遊びと学習、⑫幼児園教育課程、⑬幼児園管理、⑭幼児園環境設計、⑮児童の家庭と地域教育、⑯就学前教育政策法規	①音楽の一般基礎理論、②伴奏法、③幼児音楽の創作と技法、④音楽鑑賞、⑤音譜を見て歌う、⑥鍵盤、⑦声楽、⑧美術、⑨幼児美術の創作と技法、⑩舞踊、⑪舞踊の創作と技法
選択科目 4.62%	A. 一般教養類		B. 就学前教育専門知識類	C. 芸術学科類
	自由選択科目	①人文社会科学概論、②現代科学技術概論、③科学発見と科学技術ミニ制作、④生物標本制作、⑤中国と外国の名著鑑賞、⑥カメラ・ビデオ撮影、⑦映画・ドラマ名作鑑賞、⑧おもしろい数学、⑨国内外の注目問題研究、⑩大学生の情操教育、⑪形式論理、⑫放送と司会、⑬中国文化、⑭コンピューターのプログラミング、⑮コンピューターによるマルチメディア教材制作、⑯インターネットの管理と維持、⑰ホームページ制作、⑱コンピューターの維持と修繕	①幼児の心理と教育統計学、②就学前教育の発展動向、③栄養学、④家政学、⑤遺伝と優生、⑥胎教と早期教育、⑦コーナー活動、⑧幼児教師教育技能、⑨幼児園の玩具・教具制作と環境設置、⑩就学前比較教育、⑪就学前教育評価、⑫就学前特殊教育、⑬陳鶴琴の就学前教育思想研究	①芸術概論、②交響楽鑑賞、③合唱と指揮、④美術作品鑑賞、⑤子ども向き歌曲の創作、⑥子ども歌唱教育、⑦子ども向き舞踊の創作、⑧子ども向き体操の創作、⑨中国と外国の美術史と鑑賞、⑩子ども服デザインと裁縫、⑪人形劇の制作と演出、⑫幼児の化粧、⑬幼児園応用設計
	特別選択科目	①音楽(ピアノ、アコーディオン、声楽)、②美術(素描、色彩、中国画)、③舞踊、④会話、⑤英会話、⑥コンピューター		
課外活動	①学術講座、学級・団体活動、②趣味グループ活動(授業時間数に含まない)			
教育実践 9.94%	①軍事訓練と職業教育、②教育観察実習、③教育実習、④社会実践			

表 4：養成プログラム③の教育課程表

必修科目 74%	一般教養関連基礎科目 (45%)		就学前教育専攻基礎科目 (29%)
	①経済基礎、②哲学基礎、 ③政治基礎、④鄧小平理論 と「三つの代表」の重要思想概論、⑤法学概論、⑥幼児教師の思想道徳修養	⑦国語、⑧大学国語、⑨幼児の言葉と文学、⑩英語、⑪歴史、⑫地理、⑬数学、⑭コンピューター、⑮物理、⑯化学、⑰生物、⑱体育	①就学前衛生学、②普通心理学、③就学前心理学、④中国と外国の就学前教育史、⑤就学前教育学、⑥就学前特殊教育、⑦就学前教育研究方法、⑧幼稚園教育活動設計、⑨現代教育技術、⑩教師用話し言葉、⑪図工、⑫音楽、⑬舞踊、⑭美術
選択科目 10%	①人文社会科学類、②自然科学類、③コンピューター及び現代教育技術、④教育類、⑤英語類、⑥美術類、⑦舞踊類、⑧音楽類；特殊教育に関わる科目と芸術・体育類に関わる科目		
教育実践 10%	① 教育観察実習と実習（週）、②活動設計の見習い、③教育調査、④軍事訓練と始業教育		
課外活動 4%	① 級・団体活動、②社団活動、学術講座、③労働		

5：養成プログラム④の教育課程表（総履修時間数は2600時間）

必修科目 1700時間 65.4%	共通必修科目 (700時間余り)		就学前教育専攻理論科目 (1000時間余り)		各養成校独自の科目
	①マルクス主義基本原理、②毛沢東思想、鄧小平理論と「三つの代表」の重要思想概論、③中国近現代史綱要、④法律基礎、⑤思想道徳修養と教師の道徳教育、⑥情勢と政策、⑦情報技術基礎、⑧大学英語、⑨大学国語、⑩体育		教育類 ①普通心理学、②子どもの発達、③子どもの教育心理学、④教育概論、⑤就学前教育学（幼稚園教育課程を含む）、⑥子どもの言葉と文学、⑦就学前教育研究方法、⑧就学前衛生学、⑨中国と外国の就学前教育史、⑩幼稚園管理、⑪家庭と地域教育、⑫幼稚園の言語教育と活動設計、⑬幼稚園の科学教育と活動設計、⑭幼稚園の健康教育と活動設計、⑮社会教育、⑯芸術教育	教養類 ①美術と子どもの美術創作、②舞踊と子どもの舞踊創作、③音楽と子どもの歌曲創作、④自然科学基礎、⑤社会科学基礎、⑥書写、⑦教師用話し言葉	
選択科目 400時間 15.4%	専攻コース別選択科目	1、人文・社会・科学コース	2、芸術コース	3、英語コース	
		①科学、技術と社会、②人口、資源と環境、③社会学概論、④児童文化概論、⑤児童映画・ドラマ作品の鑑賞と分析、⑥物質科学、⑦生命科学、⑧地球と空間科学	①児童芸術教育概論、②合唱と指揮、③即興伴奏と子どもの歌曲創作、④子どもの舞踊創作、⑤図工制作、⑥コンピューター美術、⑦幼稚園の環境創設、⑧玩具設計	①総合英語、②英語で視る・聴く・話す、③英語閱讀、④英語創作、⑤英語作文、⑥英語歌曲と演出、⑦児童英語と活動設計	
		4、体育コース	5、幼稚園経営管理コース	6、就学前教育研究コース	
		①幼稚園体育学、②体操、③児童リズム体操、④水泳、⑤体育ゲーム、⑥民族伝統体育	①就学前教育経済学、②幼稚園経営管理、③幼稚園組織行動学、④園長専門成長実務、⑤就学前教育法規、⑥就学前教育政策学、⑦就学前教育測定と評価、⑧陳鶴琴教育思想研究	①幼児教師専門成長論、②教師発達学校実務、③就学前行動研究、④幼稚園の質的研究、⑤教育統計学、⑥教育測定と評価、⑦教育統計ソフト開発	
	自由選択科目				
教育実践	①教育観察実習、教育調査（4週）、②教育実習（6週）				
備考	残りの200～400履修時間は各養成校が選択科目の履修や復習・試験などに充てるように任せる。				